

とらのもん

- 公開講座：治験のはなし
- 連携医療機関のご紹介
～池上内科循環器クリニック～
- 患者さんに寄り添ったリハビリテーションを
円滑に行うために（分院回復期リハビリテーション病棟）



〈白馬岳より旭岳に沈む夕日〉

基本理念：医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし
その時代時代になしうる最良の医療を提供すること

公開講座：治験のはなし

【本院】

『肝臓病の新しい治療に興味ありませんか？』
肝臓センター部長 池田健次
『最新の骨粗鬆症治療薬』
内分泌代謝科部長 竹内靖博

日時：2月21日（土）14:00～15:30
場所：本院 本館3階講堂（入場料無料）

【分院】

『肝臓病の新しい治療に興味ありませんか？』
分院長 熊田博光
『多発性嚢胞腎の進行を抑える薬』
腎センター部長 乳原善文

日時：2月14日（土）14:00～15:30
場所：分院 5階講堂（入場料無料）

※本院・分院で開催日時・場所が違います。お間違いのないようお気をつけ下さい。
諸般の事情により、変更・延期・中止になる場合がございます。
お電話・ホームページ等で開催の有無をご確認下さい。



肝臓病の新しい治療に興味ありませんか？

わが国ではB型肝炎・C型肝炎に感染している人がそれぞれ150万人ずつおられます。これらの肝炎ウイルス感染者は、慢性肝炎・肝硬変をへて、肝臓がんに行進することが知られており、できるだけ早い段階での治療が必要です。

C型慢性肝炎では、1992年にインターフェロン単独治療が保険認可されて、初めて「ウイルスの完全排除」「肝炎からの卒業」を達成できる人が出てきました。インターフェロンは副作用が多いわりにあまり効かないといわれていましたが、当初5%程度の効果しかなかった「難治型」のC型肝炎患者さんも、現在では新薬の相次ぐ開発で50%程度の治癒率にまで上がっています。日進月歩の肝炎治療薬は、一方では治癒確率を高める新薬、一方では副作用を減らす治療、さらには進行した肝臓病（肝硬変）の人にも行えるインターフェロン治療法の開発などと、さまざまな研究と臨床試験が進められています。肝臓がんになってしまった人に対する治療法も次々に開発されています。小型の肝臓がんに対する治療として新規のラジオ波凝固装置が

分院長兼肝臓センター部長 熊田 博光

<専門分野>

慢性肝疾患の診断と治療

<所属学会等>

日本肝臓学会理事・評議員・指導医

日本消化器病学会評議員・専門医・指導医

日本内科学会評議員・認定医・指導医 他



肝臓センター部長 池田 健次

<専門分野>

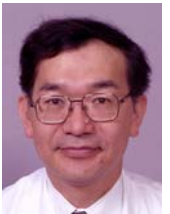
肝臓の早期診断と内科的治療

慢性肝疾患の診断と治療

<所属学会等>

日本内科学会認定専門医・指導医

日本消化器病学会専門医・指導医・評議員 他



開発され、進行した肝臓がんに対してはいくつかの新しい抗がん剤が治験薬として使えるようになりました。

今回は、最近までの肝臓病治療の進歩と、これを支える新薬開発や治験を知っていただき、虎の門病院で実際に参加できる新しい治験を紹介いたします。

最新の骨粗鬆症治療薬

新しい骨粗鬆症治療薬の重要性と臨床試験

骨粗鬆症は症状に乏しく、実感がないままに進行する病気のひとつですが、60歳以降におこる日常生活での骨折の大半は骨粗鬆症が原因といわれています。日本の骨粗鬆症患者数は1000万人以上と推定されおり、加齢とともにその頻度は増えていきます。

現在日本では骨折の危険を減らす効果が実証されている複数の薬剤が骨粗鬆症治療に用いられています。しかしながら、既存の薬による効果は骨折を30-50%減らすという程度しか期待できません。また、骨粗鬆症治療は70歳で始めたとしても10年以上の長期におよぶことが予想され、長期間の治療における有効性と安全性への配慮が求められます。特に、閉経後早期に骨粗鬆症治療を始めなければならない場合には、壮年期、初老期、老齢期とそれぞれのライフステージに適した治療が必要になります。このような背景から、数多くの新規の骨粗鬆症治療薬

内分泌代謝科部長 竹内 靖博

<専門分野>

内分泌疾患全般

骨・カルシウム代謝異常症

<所属学会等>

日本内分泌学会専門医・指導医・代議員

日本内科学会認定内科医・教育責任者

日本骨粗鬆症学会評議員



が開発の途上にあります。

現在世界中で開発が進められている「RANKリンゴド中和抗体」は、半年に一度皮下注射するのみで、既存の骨粗鬆症治療薬に匹敵する効果を発揮することが期待されている治験薬です。今回は、当院で行っている治験についてご紹介すると同時に、どのように治験が実施されているのか具体的にご説明いたします。

治験の参加募集について

骨粗鬆症の発症予防と治療に有効な薬剤を開発中。治験にご参加いただける方を募集しています。

治験とは・・・
新薬や既存薬の有効性や安全性を確認するために、健康な人または患者さんに投与して効果や副作用を確認する試験のことです。
骨粗鬆症の新薬「RANKリンゴド中和抗体」は、骨密度を増やし、骨折のリスクを減らすことが期待されています。

治験にご参加いただける方
① 骨粗鬆症の診断が確定し、治療が必要とされている方
② 副作用が少なく、将来通院が可能な方
③ 65歳以上の方

治験にご参加いただくには、事前に医師の診察を受ける必要があります。この診察、骨密度測定は無料です。治験には参加費はかかりませんが、参加費を希望されない場合は、途中で参加を打ち止めても患者さんの健康上、なんら不利な影響を及ぼすことはありません。

この治験について詳しくは、内分泌代謝科にまでお問い合わせください。骨粗鬆症の専門家として、骨粗鬆症の予防と治療に貢献しています。

内分泌代謝科 竹内 靖博
03-3555-1111 (代)

多発性嚢胞腎の進行を抑える薬

多発性嚢胞腎は、両側の腎臓に多数の嚢胞がみられる遺伝性の疾患で通常は成人型が多く、常染色体優性遺伝型多発性嚢胞腎 (Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease) が正式な名称とされています。出生前より嚢胞形成が始まり、長い年月をかけて徐々に嚢胞が腫大を続け、途中高血圧を合併し58～60歳で末期腎不全になり透析導入となる場合が多いですが、実際に本症をもつ患者の何割が透析に至るかに ついての詳細なデータがないのが事実です。

遺伝子異常の疾患ですが、同じ遺伝子を持つとされる兄弟姉妹間でも腎不全進行時期、透析導入時期が異なる場合も多く、また親子間でも子供の方が早く透析に導入する家系もあることから、腎不全進行因子としては遺伝子異常以外の因子の要素もあることが推察されます。その一つとしては環境因子として食事習慣の問題もあるかもしれません。

腎機能の低下は、一定のスピードで進行することもあります。進行速度が途中で突然変更することもあります。これは腎不全の進行速度

腎センター部長 乳原 善文



< 専門分野 >

多発性嚢胞腎の治療
慢性腎炎・ネフローゼの治療

< 所属学会等 >

日本透析療法学会指導医・評議員
日本腎臓学会指導医・評議員
日本リウマチ学会指導医・評議員
アメリカ腎臓学会会員
ヨーロッパ腎臓学会会員

が急に加速する場合もあれば遅くなる場合もあるからです。腎機能に進行原因がはっきりしない場合と、感染、脱水、血圧の管理、嚢胞に関係した出血が関係していることもあります。また女性では妊娠を契機に大幅に進行することもあります。

これまで本症の進行を直接抑える薬剤についてはないといった方がよいのが現実でしたが、最近“バソプレシンV2受容体拮抗剤”なるものが、本症の進展を抑える働きがあることが動物実験で確認され、これを臨床応用しようとする試みが治験薬として始まり現在進行中です。

実績紹介

現在実施中の治験 (対象疾患等) とこれまでの実績をご紹介します

< 現在実施中の治験 > (2009年1月現在) *2009年1月現在募集中

血液科	*造血器疾患、*再生不良性貧血
内分泌代謝科	*原発性骨粗鬆症
呼吸器センター内科	*インフルエンザ(ハイリスク群)、 *非小細胞肺癌
肝臓科	*肝細胞癌、進行性肝細胞癌、*肝悪性腫瘍、B型慢性肝炎、 C型慢性肝炎、C型肝炎ウイルス陽性肝細胞癌、 C型慢性肝炎(初回治療例)、 *C型慢性肝炎(前治療後再燃例)、 C型慢性肝炎(前治療無効例)、 *C型代償性肝硬変、 *体重50kg以下のGenotype1かつ高ウイルス量のC型慢性肝炎患者、 *難治性のそう痒症を有する慢性肝疾患
循環器センター	高コレステロール血症、*急性冠症候群
腎センター	常染色体優性多発性嚢胞腎
小児科	成長ホルモン分泌不全性低身長症、 子宮内発育遅延性低身長
皮膚科	母斑(太田母斑、扁平母斑)、 血管腫(単純性血管腫、莓状血管腫、毛細血管拡張症)
消化器外科	*ゲムシタピン耐性膀胱癌
間脳下垂体外科	先端巨大症、下垂体性巨人症
耳鼻咽喉科	伝音障害、片側聾

< 治験実績 >

	実施治験数
2008年度	59件 (528例)
2007年度	46件 (420例)
2006年度	44件 (565例)
2005年度	48件 (634例)



〈院長あいさつ〉

みなさん、こんにちは！昨年12月に世田谷区桜新町駅前サザエさん通りに開業いたしました。

筑波大学卒業後、心臓・循環器の専門医として東京女子医科大学病院およびその関連病院で診療に携わり、同時に昨年まで太田総合病院で部長として内科全般の診療を深めてまいりました。現在は虎の門病院で睡眠時無呼吸症候群を含む睡眠障害の診療に携わっております。

私の専門である心臓・循環器・高血圧・生活習慣病・睡眠時無呼吸をはじめ、風邪などちょっとしたことも遠慮なくご相談ください。症状により、専門の病院での対応が必要な場合には、適切なタイミングで東京女子医科大学や虎の門病院など提携医療機関に紹介をおこないます。

皆様のカラダにかかわることの相談役として、一方ではスペシャリストとして、万全なサポートをさせていただき、みなさまに愛されるクリニックを目指します。当院に来ていただいて帰るときに「今日、ここにきてよかったな」と思われるクリニックにすることを、職員一同の目標として皆様とともに歩いていきたいと考えております。何卒よろしく願いいたします。

院長 池上 晴彦 (いけがみ はるひこ)



●略歴

昭和41年1月7日生まれ

平成 2年 筑波大学医学群卒業

平成 2年 東京女子医科大学

循環器内科入局

平成 6年 都立府中病院循環器科

平成10年 東京女子医科大学助手（現在助教）

平成12年 都立荏原病院（現荏原病院）内科

平成13年 国立病院横浜医療センター循環器科

平成16年 太田総合病院（川崎市）内科副部長

平成19年 同 内科・循環器科部長

平成20年 虎の門病院睡眠センター

平成20年 池上内科循環器クリニック開業

●資格・所属学会

医学博士、認定内科医、循環器専門医、認定産業医

日本内科学会、日本循環器学会、日本睡眠学会、

日本不整脈学会、日本心不全学会、

日本医師会認定健康スポーツ医



【診療日・診療時間】

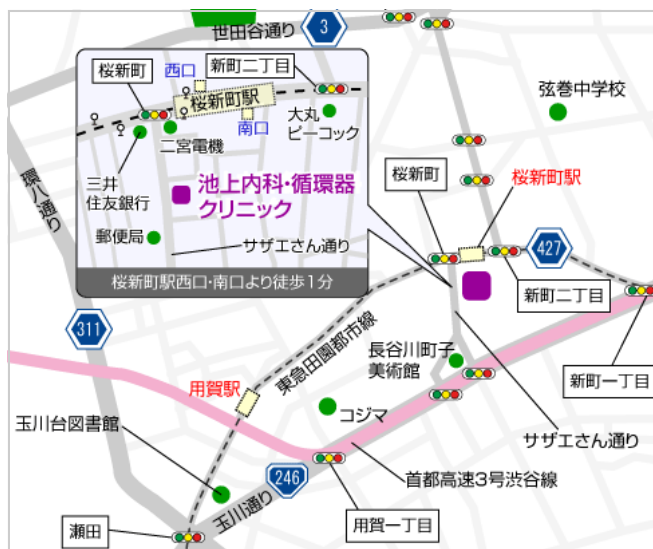
時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	休
15:30～19:00 ※土曜のみ14:00～17:00まで	○	○	○	休	○	○	休

●休診日／木曜午後、日曜、祝日

【診療科目】

内科一般、循環器内科（心臓、高血圧、不整脈など）

睡眠時無呼吸症候群、睡眠障害、生活習慣病、各種検診
予防接種、ペースメーカー外来



池上内科循環器クリニック

■住所 東京都世田谷区桜新町1-11-5
HANAKIKUビル1階

■電話 03-5426-6550

■交通 ・田園都市線「桜新町駅」徒歩1分
・都立大学駅、目黒駅、成城学園前駅より
直通バス（東急バス 都立1系統）

患者さんに寄り添ったリハビリテーションを円滑に行うために

回復期リハビリテーション病棟

【回復期リハビリテーション病棟ご紹介】

みなさん聞きなれない言葉だと思いますので、「回復期リハビリテーション病棟」について少しご紹介いたします。

2003年6月、虎の門病院分院(川崎市)の2号棟2階で病床数40床でスタートしました。脳血管疾患、整形外科疾患、内科疾患の廃用症候群の患者さんがリハビリを行っている病棟です。病院スタッフは患者さんの自立度アップのため、医師、看護師、リハビリスタッフ、MSW、薬剤師などがチームを編成し治療にあたっています。

2008年8月～9月の在宅復帰率は89%で、多くの患者さんが自立し自宅に戻られています。

【問題と解決のために】

これまでは看護師は病棟、リハビリスタッフは地下1階のリハビリ室で作業を行っていました。このため、スタッフのコミュニケーション不足により患者さんにご迷惑をおかけすることがありました。また、スタッフが病棟での生活からリハビリまでの患者さんの一日の動きをトータルで見ることが難しいという問題もありました。

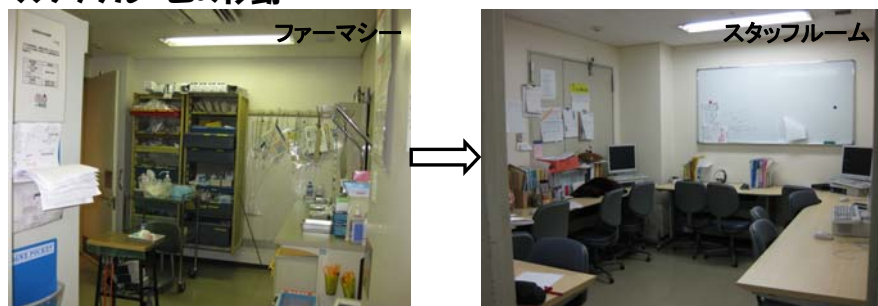
患者さんの居室である病棟の近くでリハビリを行うことは、リハビリ病棟の理想です。まずは、スタッフが作業場所を共にすることで、コミュニケーションが向上し、より患者さんに添ったリハビリが行えると考えました。加えて、病棟でのリハビリが行えるように整備し、患者さんの生活をとぎれなく観察し、関わることでリハビリがスムーズに行えるようにすることを目標としました。

病棟表示の変更



患者さんにわかりやすいように病棟の表示を「ナースステーション」から「回復期リハビリテーション病棟ステーション」と変更しました。

スタッフルームの移動



看護師とリハビリスタッフのコミュニケーションの充実と、患者さんの生活をトータルで観察するため、病棟ステーション奥にあったファーマシーを移動させ「リハビリスタッフルーム」としました。

リハビリ設備の整備



病棟でもリハビリが行えるように、①病棟の廊下にてできる限り長い手すりをつけ歩行練習ができるように整備しました、②リハビリ用の全身鏡を設置し歩容や姿勢をチェックできるようにしました。

【成果と今後の活動】

今回の改善で、スタッフ間のコミュニケーションが増え、患者さんを交えた意見交換もさかんになりました。これからも、患者さんやご家族にわかりやすく効果的なリハビリを行うために、リハビリの進行状況や介助レベルをタイムリーに患者さんやご家族に知らせるよう工夫し、早期にご家族にもリハビリに参加してもらったり、患者さんの状況についてのスタッフ間の意見交換を充実させるなど努力していきます。

第2回 楽しい食事のすすめ：食べることの分子生物学的意味

医療安全アドバイザー
シミュレーション・ラボセンター長 中西 成元

突然ですが、人間は生物です。当たり前です。生物とは生命を持つものの総称です。では生命とは何でしょうか。20世紀の生命科学はその問いに「生命とは自己複製を行うシステムである」というひとつの答えを出しています。

このシステムは複雑な構造をしています。構造の単位となっているのは細胞です。原生動物や細菌、藻類の一部のように細胞1つで成り立っている生物もあります。いわゆる単細胞生物で、一個の細胞の中で食物の摂取、水分の調節、消化、運動、生殖など多様な働きを全て行っています。多細胞生物は細胞が分化し、組織を造り、さらに器官を構成して1つの生物を作っています。

生物は外界から物質をとり入れて化学変化を起こし、生命活動に必要な物質を作り上げなければなりません。これを同化といいます。逆に、複雑な物質を呼吸などによって分解し、生命活動に必要なエネルギーを得なければなりません。これを異化といいます。両者をまとめて代謝（メタボリズム）といいます。この代謝を行なうためには酸素も必要です（内呼吸）。同化には、光エネルギーを利用する場合もあり、これは特に光合成といいます。

いずれにしても、生物は自己複製するために外部から物質を取り込む必要があります。これが生物学的な食べることの意味です。この時に外界から取り込む物質を栄養素と呼んでいます。栄養素は役割により3つのグループに分けられます。第1は体をつくるために必要なタンパク質、脂質、ミネラルです。第2はエネルギーのもとになる炭水化物、脂質、タンパク質です。第3は体の機能を調節するビタミンやミネラルです。そして、水が大切な要素である事はもちろんです。

炭水化物は多糖類のでんぷん、二糖類の砂糖、単糖類であるブドウ糖などの糖質と植物繊維の総称です。脂質とは、体の成分のうちアルコールなどに溶ける脂肪酸を含み体で利用される中性脂肪、リン脂質、糖脂質、ステロールの総称です。タンパク質は約20種類の

アミノ酸が様々な比率で結合した栄養素で、炭素、水素、酸素以外に窒素と硫黄を含みます。ビタミンは体内でほとんど作られませんが、体の調子を整えるために必須の栄養素で、水溶性のものと油溶性のものがあります。こういった栄養素を私たちは日々摂取しています。

私たちの体は約20種類の元素で構成されています。タンパク質や糖質、脂質（そしてもちろん水）を構成している酸素、水素、窒素、炭素などが体内の元素の多くを占めています。その他にもカルシウム、ナトリウム、カリウム、鉄、ヨウ素など、量としては比較的少ない元素が多種含まれています。これらの元素でできている生物ですが、生物はこれらの要素が単に集合した構成物であるに留まりません。生命とはこれらの要素の「流れ」がもたらすところの効果なのです。

約70年前にシェーンハイマーが放射性同位元素を使って実験を行い、驚くべき事実を明らかにしました。体の中のタンパク質は、なんと3日間のうちに半分が食べ物由来のアミノ酸によって置き換えられ、そのアミノ酸も分子レベルで置き換えられているというのです。彼はこのように言っています。「生物が生きている限り、栄養学的要求とは無関係に生体高分子も低分子代謝物質もともに変化してやまない。生命とは代謝の持続的変化であり、この変化こそが生命の真の姿である」

分子生物学者の福島伸一は生命現象を「壊されることに先回りして自らを壊し、そして絶え間なく作り直すあてのない営み」と表現しています。この言葉は方丈記の「行く川の流るは絶えずして、しかも、もとの水にあらず」を想起させます。その絶えない流れこそが私たちがすべからず持っている生命の本質なのです。

鶯の笙落したる椿かな 芭蕉



三島由紀夫は15歳のとき『凶ごと』という詩を書いている。「わたくしは夕な夕な/窓に立ち椿事を待った、/凶変のどう悪な砂塵が/夜の虹のように町並の/むこうからおしよせてくるのを。」(仮名づかいは改変)早熟の天才には恐れ入るほかないのだが、すでにこの詩のうちに、彼の切腹という凶ごとへの執着が予言されている。

実際、初期の作品『館』や『中世における一殺人常習者の遺せる哲学的日記の抜粋』などから、残酷な死やサドマゾヒズムへの嗜好が読み取れる。また彼が同性愛者であったことは、自伝的小説『假面の告白』にも描かれている通りだろう。昭和27年1月に朝日新聞社の特別通信員としてリオ・デ・ジャネイロを訪れたとき、少年に親しんだことが最初の実体験なのである。もっとも結婚して子供もいるし、某料亭令嬢とも長い間関係をもったことになっているから、真正の同性愛者であるよりも、芸術のため^{とうかい}の韜晦や自己暗示が、彼をさらに駆りたてたのかも知れない。

こんなことはいまさら言うまでもないだろう。ここでは魔的で精神病的な傾向を、彼の文章から指摘することにしたい。まず三島由紀夫というペンネームである。これは昭和16年に雑誌『文芸文化』の編集会議で伊豆修禅寺に旅行したとき、富士山がきれいだったことから自然に決まった。初め「由紀雄」とも書いたが、やがて「由紀夫」に定着した。そして彼自身戯れに「魅死魔幽鬼尾」としたこともあった。これは神戸の少年A「酒鬼薔薇聖斗」を思わせる名前である。

さらに作品中にも、いくつかの薄気味が悪い表現がある。戯曲『愛の不安』では、17歳になった二人の少年少女の間に生まれるはずだった胎児は、^{ちんにゆう}「闖入者はおもむろに石段を下り来たり、月光の餘影にその奇怪なる頭部はじめてあらわる。柔らかき巨大なる頭部にひしがれし妊娠四ヶ月の胎児の顔なり」というト書きとともに登場する。ロールシャッハ・テストでは、こういった答えは荒廃(deterioration)反応と呼んで、精神病の存在を疑うことにしている。

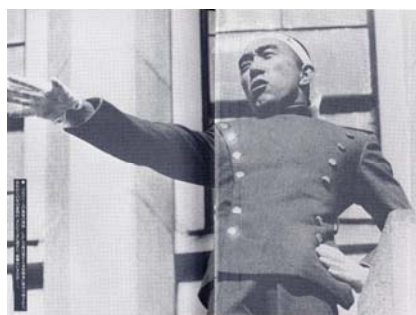
また『假面の告白』は「永いあいだ、私は自分が生まれたときの光景を見たことがあると言

い張っていた」で始まっているが、まともに取りれば追想錯誤と言えるのである。

『鏡子の家』にも妙な表現がある。主人公の一人、画家である夏雄が深大寺に行ったとき、「日は幾条に横雲のあいだをみるみるすべり落ちた。そして黒い密雲のただなかにあいたふしぎな窓、あの短冊を横にしたような形の窓を充たしはじめた。・・・夏雄は世にもふしぎな四角い落日を見たのである。」という。円い太陽を四角に見ることは、一種の妄想的な知覚異常と思うのである。

また『金閣寺』には「それ(金閣)は私と、私の志す人生との間に立ちばかり、はじめは微細画のように小さかったものが、^{ほと}みるみる大きくなり、あの巧緻な模型のなかに殆んど世界を包む巨大な金閣の照応が見られたように、それは私をかこむ世界の隅々までも埋め、この世界の寸法をきっちり充たすものになった。」とある。彼の観念的な傾向に基づいた表現と考えてもいいが、むしろ作者の妄想的な傾向が漏れ出てきたとすることもできる。

三島は几帳面で礼儀正しい人だったが、いろいろな異常行動があった。大真面目で始めた「楯の会」という私製のミニ軍隊も、周囲からは奇異の目で見られていた。これらは彼なりの実践行動への欲望によるものと好意的に解釈されていた。だが、作品のあちこちには精神病的な要素が読み取れるから、一見して人格障害がないようであっても、精神病の症状と考えるべきだろう。彼の「自衛隊乱入」は、自身の「切腹の美学」のため、他人までまき添えにした事件だったのである。



(バルコニー上の最後の演説)
『三島由紀夫死と真実』(ヘリ・スコット・スタークス著・ダ・ヴィッド社)より



(決行直前にとった記念写真)
『三島由紀夫死と真実』
(ヘリ・スコット・スタークス著・ダ・ヴィッド社)より

虎の門病院からのご案内

初診時より効果的な診察ができますよう、可能でしたら他病院からの紹介状をご持参ください。紹介状をお持ちにならない場合は初診時選定療養費(本院5,250円、分院3,150円)をお支払いいただきます。

本院診療受付時間(初診)	
内科	8:30 - 10:30
小児科	8:30 - 11:00
皮膚科	8:30 - 10:30
麻酔科	13:00-14:30(水以外)
外科	8:30 - 11:00
脳外科	月曜～金曜 8:30-11:00 月(第2・4)・金 13:00-14:30
整形外科	8:30 - 10:30
形成外科	8:30 - 10:30
産婦人科	8:30 - 11:00
泌尿器科	8:30 - 10:30
耳鼻咽喉科	8:30 - 10:30
眼科	8:30 - 10:30
歯科	8:30 - 10:30

虎の門病院 本院

〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2
TEL 03-3588-1111 (代)
地下鉄銀座線虎ノ門駅3番出口 徒歩5分
車でご来院の方：有料駐車場があります
(30分：300円 患者さん割引あり)

虎の門病院 分院

〒213-8587 川崎市高津区梶ヶ谷1-3-1
TEL 044-877-5111 (代)
田園都市線梶ヶ谷駅より徒歩15分
宮崎台駅よりバス5分
(1時間に5～3本)

さいたま診療所

〒330-0081 さいたま市中央区新都心2番1
さいたま新都心合同庁舎2号館1階
TEL 048-601-1347
JRさいたま新都心駅 徒歩5分
JR埼京線 北与野駅 徒歩8分
(診療科) 内科・精神科・歯科
平日 AM 9:00～11:30 PM 1:30～4:00



全館禁煙

当院は禁煙を推進しています。ご協力をお願いいたします。

ホームページアドレス <http://www.toranomon.gr.jp>

	分院診療受付時間(初診)	
	午前 8:30-10:30	午後 1:00-3:30
内科総合診療科 (一般内科)	○	○
内分泌代謝科	水・木・金	×
呼吸器科	金	水(第4×)
肝臓科	週による	週による
消化器科	×	水
神経内科	×	月
腎センター(内科)	月・火・水・木	月(第1×)・火・金
腎センター(外科)	月・火・金	×
精神科	×	月・火・水・木
循環器センター	×	水(第1)
外科	火・木(第2・4)	火・水・木・金
整形外科	○ ※月は午前10時～	×
皮膚科	×	火(第2・4) ※午後1時～2時
小児科	×	月・水・金
泌尿器科	×	木
歯科	○	○

予告なく変更することがありますので、診療前に電話等で各科の診療の有無を確認の上、ご来院ください。

人間ドック・脳ドックに関するお問い合わせ

虎の門病院附属
健康管理センター・画像診断センター
(直通) 03-3560-7777 (平日11:00～16:30)
ホームページ <http://www.toranomon-dock.jp/>

当院でセカンドオピニオンの 提供を受けたい方へ

他の病院におかかりの患者さんで、ご自分の病状や治療方針について現在おかかりの医師以外の意見をお求めの方へ対し、当院各科専門医(部長・医長クラス)による特別相談をお受けしております。(予約制)

(料金) 60分：42,000円(延長30分毎：21,000円)

本院医療連携部 03-3588-1111 内線4106

分院医療連携部 044-877-5111 内線5141